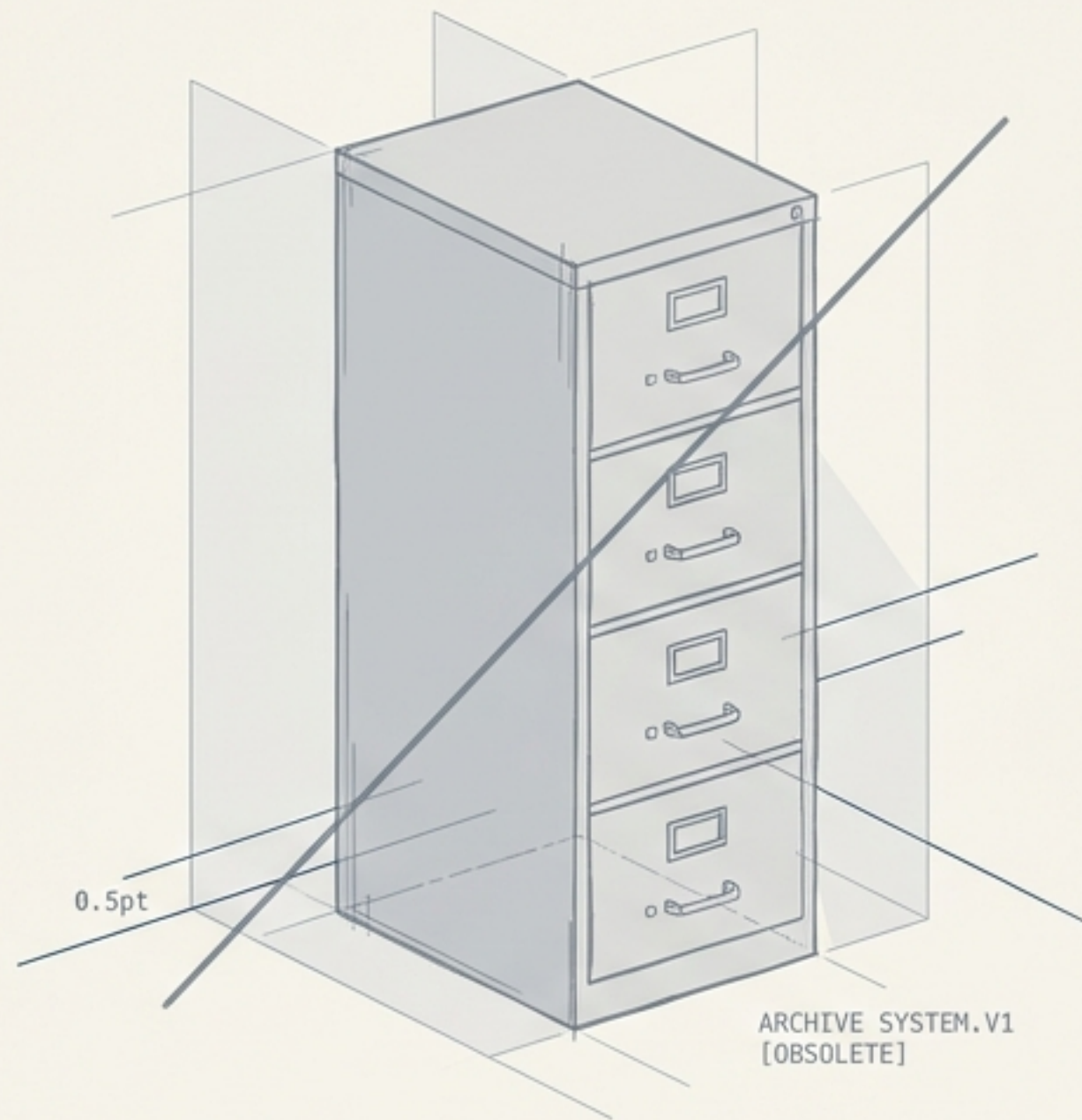




記憶構造論

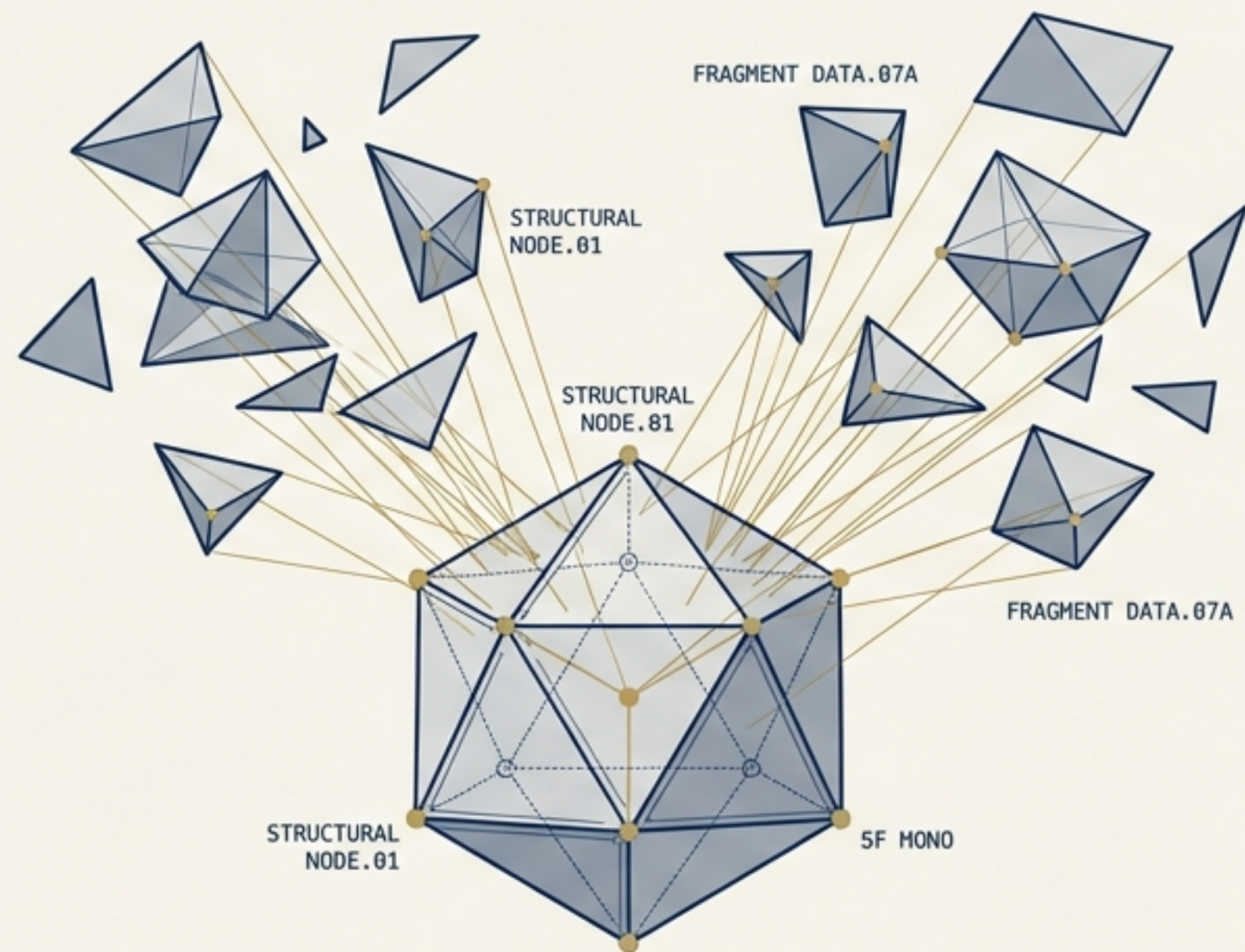
再構成される真実と「照応の倫理」

人間とAIの「真実」を繋ぐアーキテクチャ



過去の幻想：記憶は「保存」される

脳内にある固定されたビデオテープのような記録。



構造的真理：記憶は「再構成」される

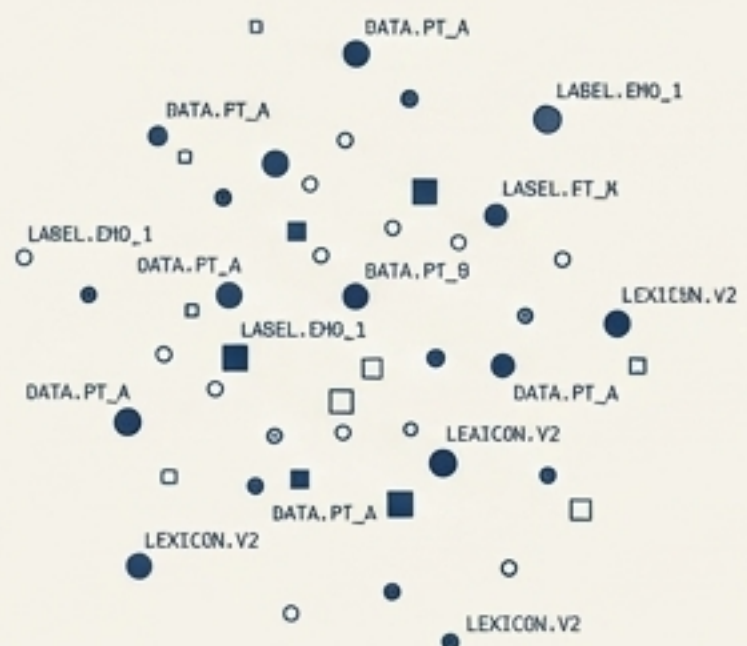
断片化されたデータが、その都度「因果モデル」として再合成される現象。

「現象そのものが存在する」と信じるからこそ、最大の社会的摩擦を生む。

Insight

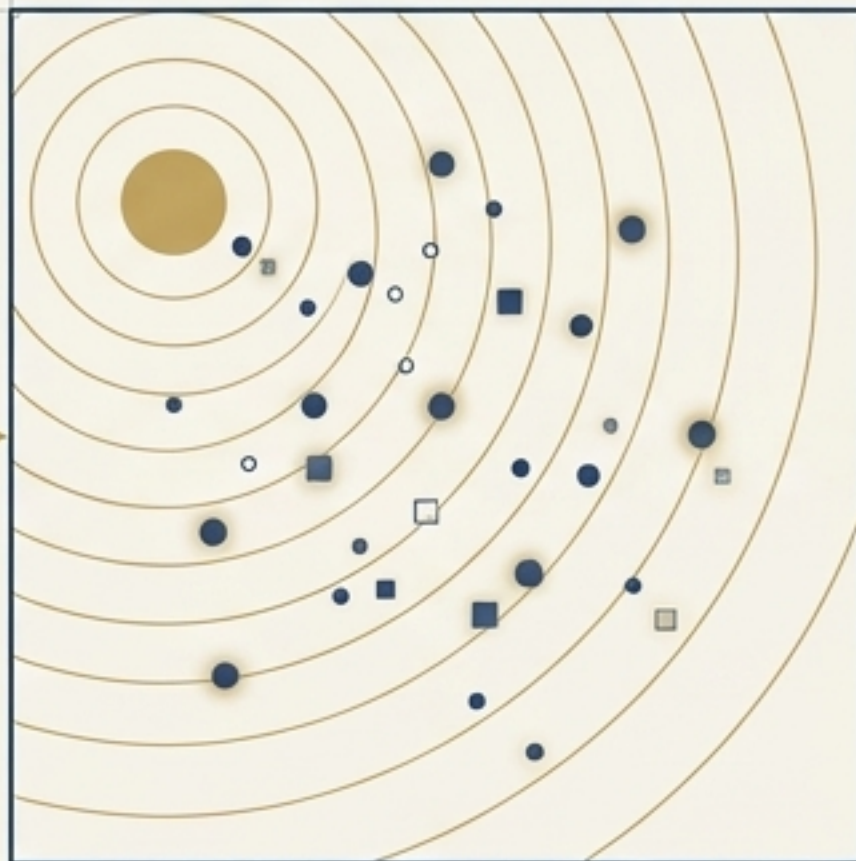
強く「思い出される」記憶は、
真実性よりも「照応のリズム」が高い。

索引的データ



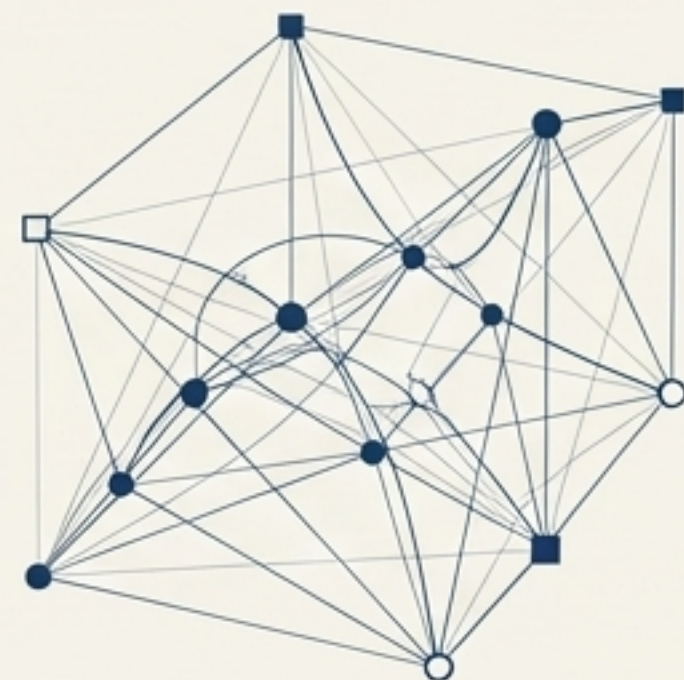
感覚の痕跡、語彙、感情ラベルの散在。

起点手掛かり



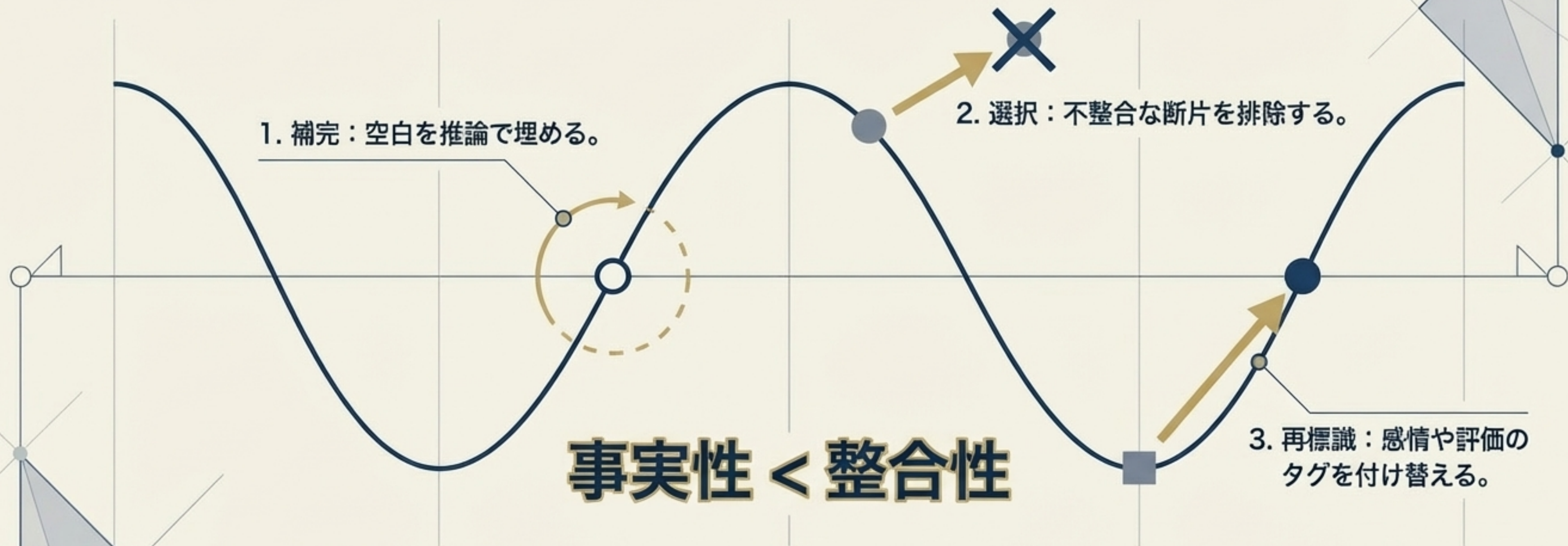
外部からの音、言葉、空間の刺激。

因果モデルの再合成



手掛かりと文脈に応じた物語の束ね直し。

歪みの必然：整合優先の編集原理



人は「真実」より先に「自己物語の連続性」を守る。

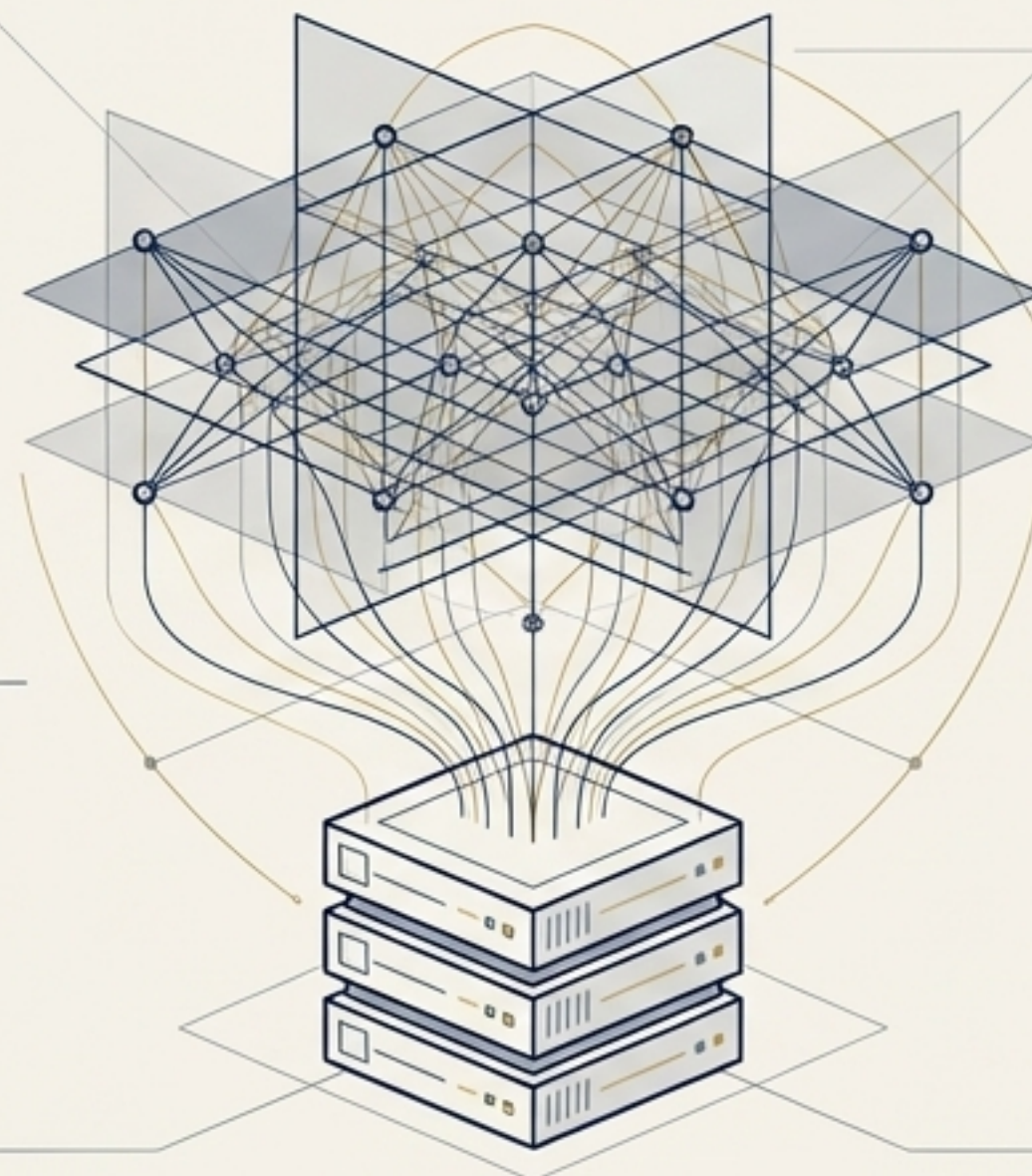
人間の記憶



- 索引的データの再合成
- 記憶の歪み・虚偽記憶

DATA.AI.GEN_A

生成AI



- 学習分布に基づく統計的再構成
- ハルシネーション

再構成装置

構造的同型性：

AIのハルシネーションは「嘘」ではない。人間と全く同じ「再構成の事故」である。

根本原因：照応断絶

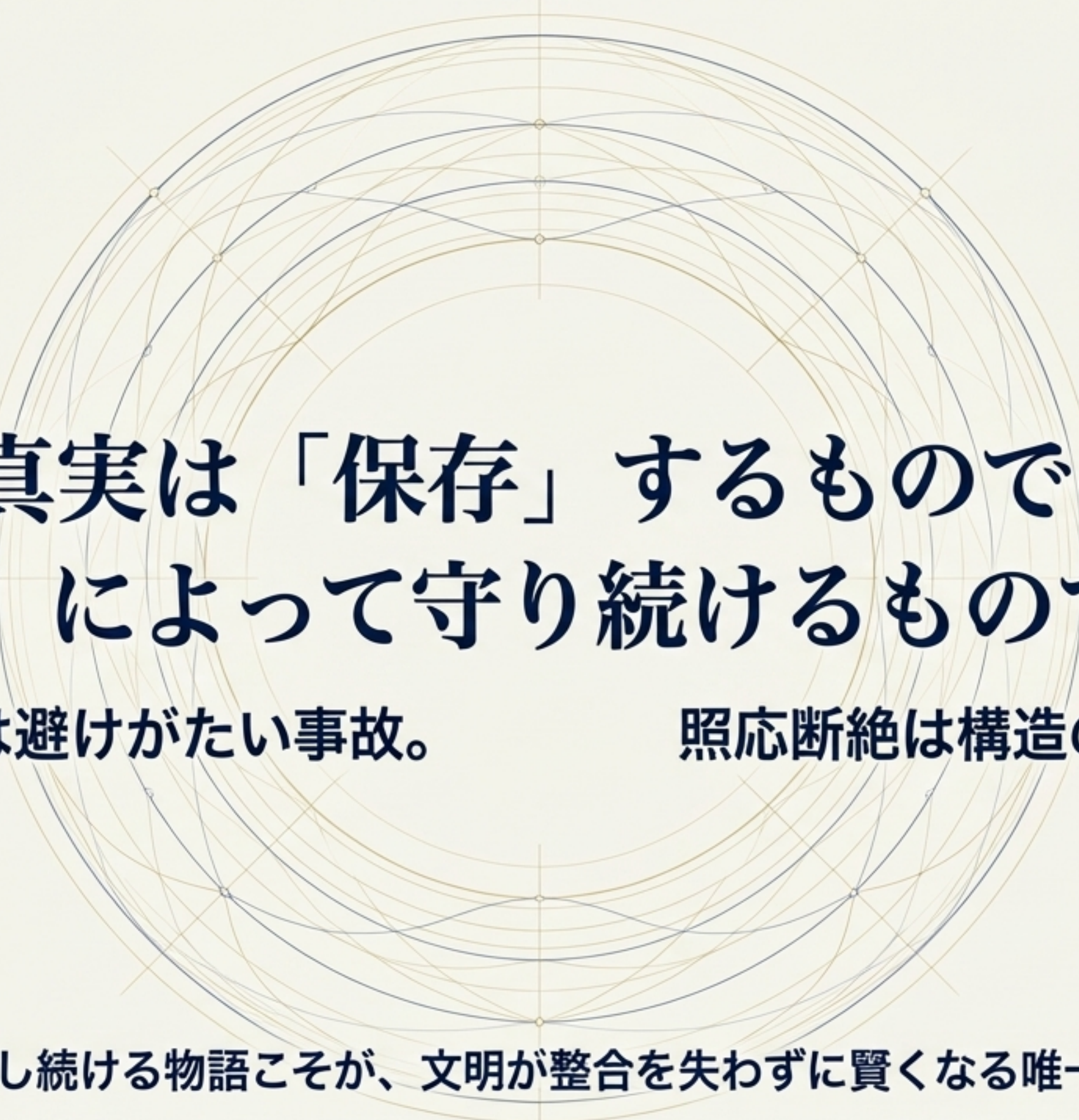


参照束（一次ログ・根拠）が欠落すると、再構成装置は「内部整合」だけで完結してしまう。外部世界との拘束を失い、虚構が安定化する。

ハルシネーションの正体は、事実の欠如ではなく「接続の失敗」である。

灯火構造倫理：人とAIに共通の防火壁

	Human	AI
1. 照応	出典の可視化	ソース拘束・根拠提示
2. 時間倫理	訂正と謝罪の周期運用	継続学習・再評価のスケジュール
3. 可逆性	証言の再検証・撤回権	出力の差し戻し・再生成の制度化
4. 配分責任	話者の立場と利害の明示	モデル境界・オペレーターの役割の明示



**記憶と真実は「保存」するものではない。
「運用」によって守り続けるものである。**

虚偽は避けがたい事故。

照応断絶は構造の崩壊。

拍の中で回復し続ける物語こそが、文明が整合を失わずに賢くなる唯一の道である。